

原稿作成の手引き

* 記述言語は日本語とする

1 タイトル（表題）

- 1) タイトルは、簡潔明瞭に論文内容を表すものとする。
- 2) 長すぎる場合や抽象度が高い場合は副題をつける。

2 Key-Word

- 1) 研究における重要な用語を明示する。（5つ以内）

3 はじめに

- 1) 研究の社会的背景や歴史的経過、研究に取り組む意義・必要性、動機を明記する。その際先行文献を検討した旨を明記する。

4 研究目的

- 1) この研究で取り組む問題の何を明らかにするかを記載する。

5 研究の方法

- 1) どのような手法で研究に取り組んだか、研究対象、研究（調査）期間、研究場所、研究の分析・解析方法を記載する（実践報告の場合も分析の視点、方法を記載）。また、研究で用いる「用語の定義」についても記載することもある。

6 倫理的配慮について

* 大分県看護研究学会原稿提出チェックリスト（別紙1）の【倫理的配慮とその記述について】を読んで原稿提出時に添付する。

7 結果

- 1) 得られた結果（データ、成績等）を明確に整理して記載する。
- 2) 客観的事実のみを記載し、研究者自身の考えや解釈は記載しない。
- 3) 必要に応じて、明瞭かつ簡潔な図、表、資料、写真等を用いる。

8 考察

- 1) 研究の分析、得られた結果に基づいた解釈・意味づけ、評価、検討を行う。この研究結果から新たな知見があるか、学問的意味があるか、普遍化できるものがあるか、特殊性のあるものか等を研究目的にそって論理的に一貫性をもって記載する。先行文献を引用して論述する。「本研究の限界と課題」についても記載する。

9 結論

- 1) 論文全体を網羅し、研究結果・考察をもとに目的に従って明らかになったことを簡潔に記述し、飛躍や矛盾がない。

10 引用文献

- 1) 引用文献は引用順に本文の引用箇所の肩に¹⁾ ²⁾ と番号をつけ、本文原稿の最後に一括して引用番号順に記載する。

- 2) 共著者は3名まで表記し、それ以外は他とする。

(例) ① これまで高齢者の排尿ケアに関する研究としては、尿失禁と残尿量の関連について明らかにした研究¹⁾ ²⁾ や尿失禁が睡眠に及ぼす影響³⁾ を明らかにした研究が報告されている。

- 3) 引用文献は次のように記載する。(文献の記載方法：日本看護協会)

- (1) 雑誌掲載論文

著者名：表題名，雑誌名，巻（号），頁，発行年（西暦年次）.

- (2) 単行本

著者名：書名（版），発行所，頁，発行年（西暦年次）.

著者名：表題名，編者名，書名（版），発行所，頁，発行年（西暦年次）.

- (3) 翻訳書

原著者名：書名（版，発行年，訳者名，書名（版），発行所，頁，発行年（西暦年次）.

- (4) 電子文献

・著者名：表題名，雑誌名，巻（号），頁，発行年（西暦年次）. アクセス年月日，URL.

・発行機関名（調査／発行年次），表題，アクセス年月日，URL.

*厚生労働省や文部科学省など公的機関から提供される情報（統計、法令等）、電子ジャーナルのみを対象とする。

- 4) 参考文献は記載しない。

11 その他

- 1) 論文における図表の作り方のルール

*図表作成に当たっては大きさと字数制限に注意する。

*必要最小限の図表を吟味して選び、作成する。

項目	内容
1. 図表タイトル	<ul style="list-style-type: none">・図表それぞれに通し番号とタイトルをつける・タイトルは内容が簡潔に分るようにする・表タイトルは表の上に、図タイトルは図の下につける・図表タイトルはセンタリングまたは左寄せにする・表の各列、図表の座標軸には項目名（見出し）をつける

2. 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・人や%など、単位をつける ・標本数（n = ）をつける
3. 体裁	<ul style="list-style-type: none"> ・説明が必要な場合は、図表下に注釈をつける ・文字や単位が読み取れ、わかりやすい大きさに作る ・1つの図表に内容を盛り込みすぎない ・表は見出し行の上下にヨコ罫線を引き、データと区分する ・表はタテ罫線を極力使わず、スペースで項目を区分する
4. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本文と一括して作成し、本文中に挿入希望位置を指定する

日本看護協会出版会 「論文作成から投稿へ 下巻」 より引用

2) 文章の作成方法

- (1) 文章はできるだけ短く書く。(一文の長さは60字以内)
- (2) 文章の主題は明瞭に書く。
- (3) 文相互をつなぐ接続詞を適宜使用する。
- (4) 筆者の思いを書くのではなく、事実や根拠に基づいた事柄を述べる。
- (5) 文献からの引用は引用符を使って正確に書く（“……”）。
- (6) 文の終わりは端的、率直な飾りのない形にする。
 - 「例」: 「○○になろう」 → 「○○になる」
 - 「○○であるとはいえない」 → 「○○ではない」
 - また、断定できないことは 「○○であると推察される」
- (7) 標題符号は適切な順序で使用する。
 - 「例」: I、1、1)、(1)、①、aとする。
- (8) 略語、外来語は不用意に使用しない。
 - 「例」: 「インフォームド・コンセント(Informed Consent)」 → 「以下I.C.」
 - 「リハビリテーション」 → 「以下リハ」
- (9) 文章は口語体で書く。
- (10) 必要以上に難しい表現や多様に解釈できるような言葉は使わない。
- (11) 用語の共通理解のために一般的な定義を知り、次いで看護事典やその他の文献など、メンバーが共通理解している用語の定義にしたがって記述する。